

參河聰視録矢矧村記三

場所付	品目	年調 月日	調製 日
文書課		28	5月1日

秋田郡役所圖書	
部門	雑書
圖書 番號	68
冊數	5
收藏 位置	1架8

291
≡ 2
2-3A



愛知縣
額田郡
復原印

井田村
三路諸士知生記

A295 A291
シズ
2-3A

○夫判長者

香漢三才圖卷之六十九廿三日夫作驛者
金高長者其女名淨瑠璃源牛若丸下
之時一夜潛逢彼女契五會而別去後過期
不還來女恨投身於菅生川死矣有侍女冷
泉者悲歎遂出家為尼淨瑠璃所秘藏之十
二画為畫得之即彌之以建阿彌陀堂号冷
泉寺

○鳥丸光廣御紀行曰元和十年昔此里、推
君淨瑠璃ノ旧跡ヲ尋又シハ齊入固崎城
中ニ成夕リ泉水龜山杯アリテ懽成事也
長者ノ趾ヲ向ハ橋ノ西海道ノ北菽ノ
有処ナリ

和歌山文化会館
昭和33.7.30
40509

愛知縣 額田郡 復辰印

大抵此書は
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の
浄瑠璃の

○夫判長者

香漢三才圖卷之六十九廿三日夫作驛有
金高長者其女名浄瑠璃源牛若丸下
之時一夜潛逢彼女契五會而別去
不還來女恨投身於菅生川死矣有侍女冷
泉者悲歎遂出家為尼浄瑠璃所秘藏之十
二画為畫得之即鬻之以建阿彌陀堂号冷
泉寺

○鳥丸光廣御紀行曰元和十年昔此里、搦
君浄瑠璃ノ旧跡ヲ尋又シハ齋入固崎城
中ニ成夕リ泉水龜山杯アリテ懐成事也
長者ノ趾ヲ向ハ橋ノ西海道ノ北菽ノ
有処ナリ

和光文化会館
昭和33.7.30
40509
夫判

A295 A291
シ
2-3A

○書言信類ト義朝
謀及シ清盛ト取
フ所持無利休誅
ス師仲ハ黨女故
下野室ハ息ハ配
流セラル
○夢ニタミカクテ三河
ノ八橋ヲ渡ルシト
ハ思ハサリシオ

○義經勲功記ニ曰昔シ依見中納言ト云人ア
リ平治ノ乱ニ源義朝ニ子シタル罪ニヨ
リテ下野国室ノ八嶋上流刑セラレ、此
道スカラ三列夫作ノ里長者カ許ニ宿リ
玉フ此長者カ娘ニ契リ夕コメテ別シ玉
フ此娘其種シヤトニテ後ニ女子ヲ生リ
其名ヲ淨琉璃姫ト呼ヘリ此娘ニメ形メ
テ夕夕心ハ上モイト艶ニ侍リケリ美安
四年春ノ頃源牛若丸都ヲ立出テ玉ヒ源
頼重カ案内ニテ供シ夫作ノ長カ家ニ宿
リ玉フニ牛若丸ハ長カ娘淨琉璃カ艶色
ニメテ玉ヒ深ク契リ夕結ヒ再會シテ
其家ヲ立出玉フ淨琉璃イ夕夕別シ
シニ奈ラセテ匙テ病ニ染テ半年計リシ

○三条金高入攝次
末春后ニ攝次奉
延高ト云

○薄墨ハ名笛タル
依テ後年神君御
取上駿列久能山ノ
宝座ニ納メ玉フニ
回鏡ヲ燦ス

○浄琉璃御前縁起ニ曰兼高長者ト申ハ有徳
テ死ケリトイヘリ
世ニコエ夕々事隠シテ然リトイヘリ
子十キ夏夕悲シテ鳳来寺峯ノ薬師上
糸篋ニ因テ果業障ノ重キ事夕懺悔シテア
ハシ一子ヲ授ケ玉ヒト祈願ヲ篋ニ夢想ヲ
感シテ設テ夕子ヲ深窓ノ中ニ長トナリ衣
客顔ニ養庶ニシテ深窓ノ中ニ長トナリ衣
寂愛ニ深カリケリ頃ハ美安四年九郎判
官義經金買擲次ト関東ニ下向シ玉フニ
長者カ館ニ管弦ノ音ニケルヲ被ニ聞
処ニ暫ク止宿マシノ音ニケルヲ被ニ聞
玉ヒ比翼連理浅カラズトイ上長途行
末ノ夏夕思百ウス墨ト云笛シ御取見ニ

殘^ニ置^ル東ノ方^ニ赴^キ玉^ヲ姫^ハハルノ
ト遠^ニ外^ニ思^ヒ奉^ル几^ニ意^ヲ愁^ノ袂^カワカ^リ子^ハ
世^ニ各^ニ一^室夕^ヲ設^テ和^琴今^ヤ夕^ヲ朗^詠之^ニ
而^テ慰^メケ^レシ^ト明^ク又^シ長^者ノ心^ヲ迷^イノ心^地之^ニ
テ^ニ壽^永二^年癸^卯二^月十^二日^ニ營^生川^ニ眞^實
夕^ニ泥^メ玉^ヲフ^テ法^名醫^誓法^女痛^シイ^哉其^処
夕^ニ俗^ニ呼^テ淨^ルリ^テ測^ト申^ナリ^シ
○鎌倉實記曰義經吉岡鬼一法眼ト云者夕
仰^トシ^テ孫^子張^良力^ヲ秘^セシ^テ術^ヲ學^ハル^ニ
ハ^テニ^テ十六^歳ニ^成玉^トシ^テ劍^丸兵^衛ノ^奥
義^ヲ極^メカ^イノ^ニシ^キ兵^者十^二夕^トシ^テ
力^ニ結^ビツ^キ從^シト^カヤ^カル^ル折^節師^ノ
ノ坊^号深^津林^坊頼^政子^合ノ^又下^野住^人深^栖
陸^之助^光重^在番^ニ上^洛シ^テ遮^那王^ニ相^相

見^ル天^暗此^冠者^夕者^ニア^ラズ^家夕^才
コ^シ宿^意夕^遂ヘ^キ器^量此^冠者^ニ奉^リ然^ル
凡^能後^見十^フシ^テ八^事十^リカ^タカ^レハ
之^爰ニ^光重^ノ妻^ノ兄^ニ三^条吉^次末^春也^ハ
富^有ノ^大高^{アリ}毎^事奥^列ニ^下リ^御館^秀
衡^ニ親^ク金^帛夕^通用^ス秀^衡元^ヨリ^源氏^ニ
ニ^由緒^モノ^成ハ^摺次^ニ能^申會^メ美^安四^年
年^三月^下旬^トソ^カニ^鞍馬^ヲ出^テ摺^次夕^才
伴^ト東^國ニ^赴シ^ケリ^道ニ^テ自^ラ元^服シ^テ
テ^九節^義經^ト名^乗ラ^シケ^ル深^栖光^重都^在
在^番勤^テ下^ラシ^カ世^ノ悼^アシ^ハ摺^次
カ^ハカ^ラヒ^ニテ^光重^ハ二^日計^後シ^テ都^ヲ
夕^出路^次ニ^テ出^合ヘ^キト^約セ^シニ^光重^ハ
研^勞ニ^依テ^都ノ^道途^ヲソ^カリ^ケシ^ハ三

河国矢作ト云知ニテ十日計滞留アリ光
重ヲ侍合セウ子連下ラシケル此滞留ノ
内義経宿ノ長カ娘上留彦娘トカ夕ラフ
上留彦娘ハ羊年計スギテ病ニ伏テ身マ
カリケリ

○義経勲功記ニ曰美安四年三月二日曉天ニ
御年十六歳ニ之テ鞍馬夕出玉ヒテ後尾
列熱田ニ著玉ヒケルカ故義朝ノ北ノ方
ハ此如ノ大官司季範ノ女ニテ當時ノ大
官司内通如範忠ハ北ノ方ノ舎兄ナリ其
好シ思召ナシ橋次夕以テ斯ト云送り玉
上ハ為御迫人夕出ニ亭宅ニ入シ参ラセ
暫ク御滞留アル於此所元服ニ同十二日
大官司範忠烏帽子ニ小結ニテ装束夕調

上参ラセ頓テ首服有テ自ラ九良義経ト
ソ号セラシケル夫ヨリ三列夫作ノ宿ニ
著玉フ然ルニ義重頼政京都上り下り
ハ此宿ノ長者カ許ニ殺日逗留セリ長者
強テ留ニカハ又此処ニテ逗留シ疲勞夕
休メ逗リニカハ此度モ是非ニ御休足候
得ト長者強テ留ニカハ又此処ニ逗留セ
リ長者一人ノ娘アリ父ハ依見ノ源中納
言師仲郷トソ聞上ニ其故ヲ尋シハ去ル
平治ノ逆乱ニ此歸モ信頼義朝ニ与ニ玉
フ科ニテ平治元年十二月八日解官セ
ラシ翌年元暦ノ三月十一日終ニ下野国
室ノ八良ニ配流セラシ玉フ其道養濃国
不破関夕スキ玉ヒケルカ斯切憂キ中ニ

モ常ニ好ニ玉上ル道也東路ノ西上群ニ

○東路ノ西上群ニ行人見レハウラヤ

ニシキハ此世ノ三河

○尾張鳴海ニテ

○才ホツカ十イカニ鳴菴ノ果ナラン

行彫モ知又旅ノ悲サ

ト談ニ玉上リ此歌ハ子裁集ニ入ケリ三

別ハ幡ニテ

○夢ニ夕ニ斯夕三河ノ八橋夕渡ルハ

口スサニ玉上リ此国矣作宿ニテ暫逗留ニ

玉上リ終ニ住家ナラ子ハ泣々配所

ニ赴キ玉上リ長者ハ其境同国鳳来寺ノ

薬師如来ヲ念ニケルニ此時不思儀ノ靈

夢ヲ感得ニ程十夕其年十二月女子ヲ平

産ニケルカ薬師靈夢ヲ感ニテ設タル子

十ニハ其名夕淨留留姫ト号ニケリ師長

卿ハ配所ハ島ニテ六年ノ春秋夕迎上玉

上仁安元年三月廿九日配所ヨリ召返サ

レ玉上リ然レ氏姫君ハ其終ニ矣判ニ指置

給ヒケルカ今ハ三五ノ春ノ花秋ノ月夕

モ妬ム計勾ヤカニアテヤカナシハイカ

成女御后ニモ仰カレ執政一人ノ御臺所

ニモ備ニト長者ニ重キ人ニモテナシテ

朝暮深窓ノ内ニマシケルニ計スモ

九良ノ御曹司夕余所ナカラ見初玉ヒア

ヤ十夕沈ム意ノ海若シルハスル海士モ

ヤト子々ニアコカシ玉ヒケルカ人ニテ

云寄玉とよかト御曹司ハ結ヒ定メ又縁
十シハ世ノ人ロ夕班玉ヒ頼重擣次カモ
シ聞ニ事モ宜シカラシト強顔イラ上ヲ
関守ニ十ニテ心強クモテ十ニ玉ヒシカ
氏申立ノ女打俣テ十トヤ係ル怨キ御返
事ヲ勇カ斯トハ申候ヘキ色夕モ香夕モ
知人ソ忍フノ里ノニブスリウヲ十キ
御心ノ程夕十セヤ余所ニハ見捨サセ玉
フヘキト様々ニ書説テ最痛フアコ子願
シラ云ケレハ御曹司モヲモハユク旦思
召セト流石ニ岩木十ラサレハ姫君ノ圃
ニ忍ヒ入玉ヒ花蓮ノ月霞ム夜ノ十枝ニ
水モラサシト契リ玉ヒケル程ニ生キテ
ハ階老ノカタラヒ深ク死ニテハ同ニ若

ノ下ニモト思ヒ通ハシ玉ヒシカ氏甲斐
モ渚ノ捨小泊リ果ヘキ身十ラ子ハ頼重
擣次ニ諫ラレアヲ又別ノ衣ニ涙ノ氷ト
ケヤラヌ故義朝々臣ノ常ニ手馴テ持玉
ヒシ漢竹ノ葉調ノ薄墨ト名附タレ母ノ
常盤ノ方ヨリ御曹司ニ侍上置シタレ夕
身夕放夕スニテ携上玉ヒケルカ又故リ
来ム迄ノ記念迎彼笛夕残シ置玉ヒテ心
ハ空ニ有明ノツシ十キ影ニ立別シテ東
ノ方ニ赴キ玉フサラシテモ斯ル別路ハ
何ニハ趾夕顧テ頭夕家山ノ雲ニ回シ
未夕思ヤリテ泪夕天泥ノ雨ニ添夕况ヤ
是ハ行末也モ限り十キ東ノ果ニ至リ玉
上ハ生テ孟ヒ巡リ逢ハニ後ノ契リモ頼

エカクニ又姫君ハ春ノ夜ノ夢ヲ結又少
夕、寐ニ化シ契リノ化名ノ立田ノ紅
葉色ニ出テ泪キ明ニ泣暮ニ玉ビケルカ
遠クモ幾ラス國ヲ隔テ陸奥ニ下リ玉ビ
ツシハ今ヨリニテ互ニ内ノ使リノ音
信夕早晚ノ世ニカハ聞ヘキト思ヒ絶岩
玉ヒ勞夕伏玉ヒニカハ母ノ長者コハ如
何ニセニト針葉子夕尽ニ種々療養ニテ
シ凡病ヒ日夕追テ重ク終ニ夏キシ玉ハ
リ母ノ長者夢ウツ、凡分カ子テ歎キ悲
ニシカモ毎ヒ飯ルヘキ道十ラ子ハ泣ク
廣原ニ送リ命塔ノ拍ノ玉トナルフソ哀
シナシ
○或説ニ浄留房ハ源中納言兼高ト謂人ノ

愛妾也ト謂又當國ノ傳説ハ三才圖會ニ
云如ク浄留房ハ夫作ノ長者兼高ト謂人
ノ娘ナリトノ三云傳ニテ勲功記杯ニイ
ハス按スルニ天正ノ頃小野ノ於通トイ
ハル女アリ此浄留房カ事都夕十二段物
ニ作り琴三絃ニ合セテ詠リ出セシ夕平
安浪華ニ流行ニ遂ニ教坊ノ第一曲ト成
シ夕又追々作者加ハリテ其意通夕巧ニ
之テ跡カ夕モ無キ空言夕トリノ造リ
出セシマ、諸國ニ流行ニ余ノ夏趾マテ
是ニ習ヒテ既弄ニ今ハ淫曲ノ數名夕浄
ルリト呼ニ至ル去ハ勲功記杯ニイハル
事モ近世ノ説夕傳會セシモ知シカクニ

因テ思フニ光廣邸ノ書玉也ニ如ク浄ル
リハ夫作ノ里ノ遊君ニシテ牛若丸ニ一
夜ノ枕ヲカハセシモノナラニサスレハ
其氏姓ハ憶カテラス浄留島カ沈ミシ如
ハ大夫川ニ其名残りテ浄ルリ判ト呼
リ其カ女也ニ成就院トイハレ禪宗ノ小
刹アリ其境内ニ浄留島ノ墓アリ大夫川
ノ上大西村ト行路ノ山ニ千本ト呼ル
リ爰ニ古松一樹立テリ麝香塚ト名付古
記ニ云浄ルリ身ヲ投ントスル時年頃杯々
リシ麝香ヲ侍女冷泉ナル者ニ渡シ妾カ
刑見ト云ソナハセト牛若丸也云ト
イヒ置テ身ヲ投テリ後日ニ牛若丸
奥ヨリ帰リ登リ来玉フ時冷泉件ノ三ヤ

香ヲ奉ケレハ牛若丸モイト哀シニ思召
テ其麝香ヲ此山上ニ築ユメテ一堆ノ塚
トナシ千本ノ卒都婆ヲ建テ菩提トヒ
玉フトイハレリ又光廣邸ノ城内ニ泉水
山杯残りテ有由書玉也ハ今ニ郭ノ内
ニ冷泉塚ト謂モノ侍リ冷泉カ亡骸ヲサ
ラニタル墳ナリト云傳フ疑ラクハ是則
浄留島カ實ノ塚ナラニカ後人誤リテ冷
泉塚ト云カサレト矣作十五堂ニモ長者
浄ルリ親子ノ墳ナリ迎古キ墓碑建テリ
光廣邸ノ海道ノ北菽ノ有処ナリト書玉
フハ是ナラニ又大夫川ノ辺リナル成就
院墓碑モイト古メキテ見ユ此寺ヲ冷泉
庵ト云ヌモ永正年中ノ古證文ニモ有レ

ハ是モ等因十ヲ又ニヤ後人ノ考ヲ待モ
ノナリ
○山田見聞雜記曰夫作ニ上留富長者屋敷
ト謂知アリ此処ニ十五堂アリ此上ルリ
姫ト云事御田信長公ノ御召任下女ニ但
シ妾小野小通ト云祐筆ニ御本妻ヨリ何
夕珍敷書テ書出候様ニ被仰候時源氏十
ニ段ト云カ十書夕書出シ此書中ニ上ル
リ姫源義経ニ意暮ノ夏夕書入候又夫作
ノ長者ト云事惟十ラス但シ今長者屋敷
ト云十五堂ノ事カ往昔夫作宿ノ頃龜旅
屋成力惣而長ト云ハ女島屋ノ夏ナリ平
治軍記ニ義朝公ノ二男朝長深手疵故ニ
養濃国大ハカノ長カ本ニテ坊腹トアリ

又鎌倉繁昌ノ砌リ大磯ノ長カ本ニテ酒
喜ノ夏アリ此類カ其時分ニ三味線八十
ニ右ノ十二段上ルリハ夕京都四糸河原
ニ南無六字大夫ト云女今ノ国大夫フシ撰
成事夕語り出シ候トアリ是上ルリノ始
成ハシ是夕思フニ今ニ本據夕見ス
○一書曰義経奥列下リノ夏杯夕作リテ語
ル上留富ハ豊臣秀吉公ノ侍女阿通ト云
者牛若丸ト三別夫作ノ長者カ娘上ルリ
姫トノ夏夕編テ書トナシ十二段ト名附
後年京師ニ滝野檢校津角檢校ト謂兩人
ノ醫者アリテ此十二段ニ篋夕附テ語り
シ夕云信濃ノ前司行長カ作ニテ生佛ト
謂醫者琵琶ニ合セ初メ夕ハ夏徒然草ニ

見上タリ按スルニ仙臺上留寄ハ此遺凡
成ハシ

○義経之事

本朝武家高名記卷之二三曰義経安元年
中其年十七歩ニテ奥及上下向セニト
欲スト雖凡遠路ノ獨歩不叶ニテ三条吉
次信高夕伴ト関東ニ赴キ江別築原ニ着
旅ナリ爰ニ養濃源氏ニ関原与市重治ト
云者アリ吉次信高賣買ノ財宝ヲ奪取力
為狼籍ニ及フ義経救マノ賊徒ヲ斬捨大
義ノ首途快ニト行過給フ是戰鬪ノ始十
リ是ヨリ遠江国ニ赴キ蒲冠者籠頼ニ尋
逢ヒ伊豆国ニ立寄右兵衛頼朝ニ面談
ニ奥列下向ニテ藤原秀衡カ館ニ入玉フ

秀衡饗應ニテ喜ヒ吉等カ祖父御館子權太
郎元衡ニ八幡太郎義家ヨリ當国ノ守護
ヲ賜リ源家重恩ノ者ナリト不斜尊敬ス
野治美三年ノ春義家平家ノ政道行跡ヲ
窺見為ニ忍テ上洛ニ給フ○文治五年奥
列衣川ニ自害一説ニ死間ノ謀ヲ以テ東
夷ニ落行夷人撫育ニ給ヒ竟斃ス故ニ恩
厚ヲ感情ニテ号ニ義経大明神ト今氏神ト
崇敬ストイニリ

○長謂事

播磨名所巡覽國會卷之五ニ曰按スルニ長
トイニ上ルハ今ノ村長又駅ニアル本陣宿
ノ類成ハシ昔ハ其家ノ主ハ皆女ニテ公
家殿上人ノ流人又ハ諸大名ノ泊リニ酒

宴ノ饗應ニ種々色香ヲ以テ身ヲ立セ
後ニハ其家ニ数多ノ菴女ヲマ子キ置テ
菴客一夜ノ友ト成シケルナリ

○三絃始之事

或書曰三味線ハ慶長年中ニ市村換授ト
云座頭薩戸国イワウカ嶋上流罪時琵琶
ヲ轉シテ三味線ニ作ル是始リナリ
一書曰永禄五年泉別堀ノ津ニ琉球国ヨ
リ蛇皮絃始テ渡ル是則虎沢換授ニ傳也
本手端手ノ術ヲ彈之得夕リ今時長歌ハ
歌ノ元祖トス然ルニ京師琵琶琴細工龜
屋市良衣衛門石村蛇皮絃ノ寸法ヲ摸リ
猫ノ皮ヲ張細工ニテ三絃ト号ク是三味
線ノ權画ナリ

○金價客橋次季春傳

橋次ヲ金賈客ト称スル説ヲ尋ヌルニ金
銀ノ竹漉テフモノハ細キ針金ノサマシ
テ丈八寸計アルヲ鍔ニテ坊客ルモノト
イハリ針金ヨリハヤ、平目ニテ丈モ
定マラス通稱ハ掉金尾玄由形替ルモ
有ルニヤ孰也世ノ小玉銀杯用ル如ク十
シ凡是ハ心ニマカセテ坊用ルニ極印
十トハ見且ス謂工ハ貨拵ナリモノ、由
右ニテ考シハ金賣橋次ノ頃ハ掉金ニテ
三子ノクノ辺リノ大ナリ掉金ヲ吊座ニ
坊テ用ユル掉金ト取替遣リテ坊貨十ト
橋次ノ利獲トセシヤ又ハ三子ノ夕ノ金
銀山多ケシハ山ヨリ堀セシ修ニ金銀ノ

鍾^ネヲ^テ掉^ル金^ニテ^テ買^ハ上^ル京^都口^ニ持^リ歸^ル金^銀ニ
 吹^カ分^ク掉^ル金^ニ兼^テ金^キ砂^キ金^キ十^トニ^シテ^テ世^上ノ^通
 用^トセ^シ故^金買^橋次^ト云^カ左^此頃^ハ平
 家^ノ世^盛リ^ナシ^ハ六^波羅^ノ後^所口^橋次
 ヲ^リ願^置運^上ニ^テ出^セシ^事ニ^ヤ今^破金
 ト^イ口^吹分^カ夕^メ夕^ルモ^ノ十^シハ^此
 勇^リ砂^金兼^金ト^イ口^吹分^カ或^ハ丸^形
 木^ノ葉^形掉^金杯^ニ打^延夕^ルモ^ノ或^ハ丸^形シ

以下十一校四行
 横字スベシ

ついでの見極
 子記の娘小松

娘十二段

宮路加賀大夫直傳

〇 爰に長老の独娘^地淨^地るり^地の茶^地と^地り
 三^地文^地の春^地花^地さ^地り^地色^地さ^地り^地あ^地ざ^地り
 の侍^地と^地独^地娘^地が^地ら^地た^地さ^地し^地村^地の^地名^地あ^地ま^地し^地
 家^地の^地つ^地り^地あ^地ら^地花^地踏^地ひ^地糸^地竹^地た^地り
 う^地も^地も^地の^地け^地さ^地り^地あ^地ま^地の^地よ^地人
 ち^地も^地ま^地さ^地り^地人^地の^地夢^地を^地あ^地ら^地る^地あ^地ら^地娘^地君

たのむ事かき〜まの(14) (15) 16
娘^カの事(16) (17) (18) (19) (20) (21)
〜 (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28)
かゝる(29) (30) (31) (32) (33) (34) (35)
〜 (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42)
〜 (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49)
〜 (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56)

おこる(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)
ら(11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)
の(21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30)
あ(31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40)
〜 (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50)
〜 (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60)
神の(61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70)

○ 姫百合草ヤ咲テアワシク
○ 井口氏系譜 藤原姓 家之紋

宣敏

母 井口新中治

井口氏ノ先祖ヲ尋ヌルニ
利仁^ト將軍ノ後ニテ
越前國ニ存藤ト云ヒ
加賀國ニハ加藤ト云
越中國ニハ井口氏
迎皆同ニ庶流ノ
藤原氏ナリ長者力
高祖井口新中次宣
敏ト云シハ越中國ノ
庶流ニテハ幡太郎
義家ニ任上叅ラセ剛
ノ座ニテ列リシ力
疾教ケ所ヲ蒙リカ
タハノ身ト成テ今ハ
奉公ノ事カ十八子
ハ越中國ヨリ末ノ弟
井口三郎宗辰ヲヨビ
ノ亦セテ家ヲ譲リ
典上由緒アリテ三
列碧海郡夫知宿ニ引

薨リケル義家公カシ
忠勤ナルヲ思ハ
サレ身ト成シク不
使ニ思召生涯安ク
スクサニヤ迎庄園
田畑ノ料ニ金教養
給ヒシニ子ノ代ニ
成テ彌家富田富買
添シカモ筋々ニ
シキ人ナシハ十ヲ
武士ノ撰ニテ皆人
尊フ富ウラヤニテ
力アリシ後モ兵ノ
道ハ無下ニ忘シ
シニハアラ子庶
更カシリ出テ任
ニモサヤル高名
モナクテハ中々人
笑上ナリ迎タメ
ラヒケリ

宗辰

母 井口三郎

女子 母 子ト

金高

母 井口新中次

某

一井口藤一

女子

母

一花依見中納言師長室

東ノ配所下野國
室ノ八島ニ被下
給ヒケリ

依見中納言師長ハ公卿ナリ人皇七十八
代ニ条院ノ御宇三河ノ任トシテ三列ニ
下リ給ヒケル平治ニ庚辰年彌生ノ末花
諸共ニウツロヒ給フ御身ヲ打ナケキ玉
ヒツ、三列夫作宿ニ到リ玉ヒケル処ニ
取テハ長者藤一名高キ者ナシハ取敢ス
御宿ヲソ任リケル師長對面アリテ子ニ
コロノ仰アシハ長者申ケルハ源氏ノ御
方人ト美ハシハユカニウツロヒ存ニ候得
ヲノシカ井口ノ家モト源家相傳ノ者ニ

テ候迎家ノ系圖十トクハニウ聞エケレ
ハ俄ニ親ニウ覺ニテ爰ニノニ物思ハニ
サヲモ給シタレユ、地ニ玉ヒテ心ノ外
ノ日數ヲソ経玉ヒケル其程徒贅ノ御十
クサメニ迎妹ノ一花ヲ養セケルニ師長
爰限糸ツ迄モ宿ラセ度思召ケレト都ノ
聞エイカ、迎配所ニソヲモムカセ玉ヒ
ケル去ハ宿世ノ契リヤ淺カラサリケニ
カリソメトヲホセニ御カタラヒニ心ク
ルニキ身トナリテ其年ノ十二月姫ヲ産
玉ヒ下野ノ室ノ八島ニヲハニ堅ス御父
師仲ノ許ニモ知セ奉シハ君父ノ御悦針
メ十ヲス我配流ノ身ナラスハ共ニ行テ
側ニソヒ居テ思ノマ、ニイツキカニツ

キ候ハンヲマカセヌ者ハ世中ヨ迎ソシ
ニ附テモ赦免ノ事ヲソ願ハシク思臣
ルニ姫君セツノ年永萬ニ西
免アリテ都立候リ給フ先夫作ニ立寄姫
ニ今日ソ實ニ逢見奉ル迎候セ玉フ夏限
リナシ長者一花モ候ヒ逢事大方ナラス
姫ハ袴ノ紐結サヒ夕出向立ハ御差貫ノ
裾ニマツハシ玉立入泪夕零トコボシ玉
ヒ十カライデ十ツカヒヤ迎ヒザニカキ
ノセテ何夏モノ玉ハス唯心ノ行計泣玉
ヒ長者ニ向ヒ玉ヒテ扱モ此見自ラハ夕
クマヌ事ノ心クルシカリシ夕我ニ成テ
見アツカヒ玉フ夏候ヒ謂ヘキ様モアラ
シトノ玉ヒ様々ノ絶テ久シカリシ御物

語共アリ星ノ逢瀬ノ心地ニ玉ヒテ教日
爰ニ逗留玉ヒシカ候国ノ日限アマリニ
延引セシハカヒコト申立セ玉ハニノ用
意モ明日明後日ニ成ヌ師使長者ニ向ヒ
玉ヒ先度事ノモテ十ヒ夕候ヒ玉ヒ扱ノ
玉ヒケルハ姫カ事限モ無クハユケシ
ハ一花諸共都立トモナハニトハ思立
赦免ノ席ニ遠国ヨリ女ヲ連テ登リ夕リ
トイハレシノミナラズ勅島ノ内ニ身ノ
咎ヲカヒリ見スシテ色ニ心夕委子夕ル
様ナリ去ハ程経テ向立取ニ迎都ニ涙十
カラ登ラセ玉ヒケリ扱一花ハ嘉慶元巳
丑年死セリ

女子

淨瑠璃御前

○平治二年庚辰十二月出生十五歳ノ時師

仲ノ縁アルヲ及テ美安四年甲午三月午

若丸舎買樽次ト関東ニ下向シ玉フニ三

列夫作ノ宿長者藤一カ館ニ管弦ノ音ニ

ケルヲ聞シヨサレ此処ニ暫ク止宿マシ

マシ淨留房ニ馴染玉ト衣里長者ノ別庄

ニ住ニ比翼連理洩カラスト云且尺長途

行末ノ事ヲ思召又義朝ヨリ傳リタニ漢

竹ノ葉調薄墨ト名笛ヲ紀念ニ殘ニ置東

上赴キ玉フ姫ハハルト遠外ニ思ヒ

ヤリ奉ル意熱ノ袂カハカ子ハ笹谷ニ一

室ヲマツテ和琴今ヤツテ朗詠シテ十夕

サメケレ尺明又長夜ノ心途ノ心地ニ春

永二年癸卯一説辛丑年辰春三月十二日

二十四号ニテ固崎菅生ノ測且魚ヲ死メ

玉フナリ

女子

白系姫井ノ新藤太某室

○平治二庚辰年出生實父ハ都三条ノ高入

大福長者吉兵衛ナリ夫作ノ長者井ノ藤

一都ニ登リニ時連来リ淨ルリノ妹トス

淨留房ヨリ二月程以前ニ出生ナリ

某

井ノ新藤太
母堀ノ君平女小雪

○保元二丁丑年出生初ニ依見中納言師仲
ノ妾ト成後ニイトマ夕取廉三ト云男ニ

合セケルニ二月ト云ニ唯ナラ又身ト成
月夕ラスシテ七月ニテ男子夕産リ里若
ト号ス後ニ壬生小猿ト云都立条ノ生シ
壬生ノ辺ナシハ壬生夕次テ苗字トス兼
テ東ノ武士十ツカシクサルヘキ者ニ西
藝夕学ント思ヒ居リシニ又童ナリニ時
君父ノ仇ニ入アラ子ト世ノ熱夕モ隆ク
心カ夕ニニテ一度田楽ナトノイヤニキ
ハザ夕モナシユツ食姿ニ身夕ヤツニテ
子ラヒニカヒ熊坂カ軍命ヤ尽サリケニ
其使夕得サリニ熊坂入道カ金買人次
カ物夕糞ヒ取ント云企夕聞テヨキ折柄
ト思ヒイツハリ熊坂ノ手下ニゾ成ケル
ヤカテ青墓ノ大炊カ内又乱入セシ折影

ノヤウニ附ソヒテ後癡夕負セケシハ熊
坂夕ヤス夕討シケリ此時牛若丸ノ子変
万化ノ御働ハ右今未嘗有ニニテ世ノ知
ル如ナカラ小猿助ケモアリケル成トゾ
カクテ歌ハ討取又今ハ世ニ望ニモアラ
子ト故郷上故ラニニモ能武士ニ成ズハ
何ノ面ハセアリテ父母ニハ見ユベキト
思ヒツ、夕ルニヨキ至モ無クテ三河ア
夕リニ任ヒケルニ衣里アリキテ是夕淨
ルリ姫ヲカイ同見テケリ小猿モ又若キ
男ニテ世ニハマシ成養男ナリ依之別ニ
テ依見中納言師仲ノ妻子ナシハ由緒ア
ルニ依テ長者井口氏ノ養子トセリ

○齊藤氏家譜 家之紋

大織冠鎌足

母 諱鎌子

中臣姓始藤原姓賜正二位内大臣一，座入床夕討取賜紫冠白鳳八年十月十八日贈正一位大臣一奉崇諡山權現

澄海公

不比等

母車持国子君之女

興福寺本願正二位右大臣大臣賜正一位大臣相国忠文公

房前

系譏正三位右大臣

母右大臣大紫冠藤原羅自古女

北家之祖十

魚名

母 正二位右衛門大将

鷲取

母 從五位上中務少輔

母式部藤原宇合系女

藤嗣

母 從四位上參議右卫門督

母 從四位上良緒女

弘仁九年三月二十四日薨四十五岁

高房

母 越前守中宮亮正四位下

時長

母 正五位下常陸介

母 參議藤原真复系女

利仁

母 從五位上越前守

母 越前国赤豊国女(一)号女

延元十一年任上野介同十二年任上總

国同年年蒙將軍宣旨越前能登加賀鎮
守府將軍武藏守上野上総介左將監

叙用

有官寮又

母輔世王女

有藤号起叙用依補有官又世号有藤也
五位上存藤黨不祖

吉信

母 從五位下中務權少甫加賀守

忠頼

母 從五位下周防介加賀守

住加賀国齊藤祖十り富掎杖進藤赤塚
正田竹田等此後裔十り

